



# 滝田医院ニュース

022-0001 岩手県大船渡市末崎町字細浦77番地 滝田医院  
電話0192(29)3108 内科・循環器科・消化器科・呼吸器科・リハビリテーション科

日本内科学会認定内科専門医・日本循環器学会認定循環器専門医 滝田 有

第14号

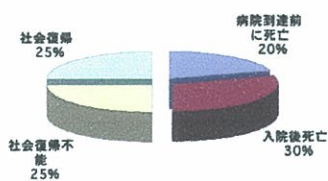
発行日 2008(平成20)年6月5日

## 長期間の休診報告「クモ膜下出血と幸運な復職」

### 目次:

院長からの報告	1面
診療案内	1面
崩壊寸前だった循環器科	2面
電子カルテ導入!!	2面
診察室から	2面

図3:くも膜下出血の子



平成20年6月5日、当院院長滝田有が再び診療を再開しました。患者さんには長らく不便、不自由をおかけしました。

顧みれば、本年1月9日末崎町中野の路上で頭痛、意識障害にて発症。救急車で県立大船渡病院に搬送されました。「左中大脳動脈瘤の破裂によるクモ膜下出血」と診断。初期的確な手術を受けた上で、同1月11日に仙台市広南病院に転院しました。同院は脳外科としては日本有数の優秀な病院です。数々の適切かつ迅速な治療を受けました。このおかげで3月12日に同院を退院した時点では運動麻痺は全くありませんでした。しかし発症時の合併症の一つで左硝子体出血による視力低下と、ごく軽い失語症がありました。このため仙台市内の各病院で入院治療を続けました。5月の連休明けには復職が可能と思われる状況になりましたが自宅静養を続けました。そして6月5日に、後遺症が全くない状況で晴れて当院に復職することとなりました。

実は「クモ膜下出血」は大変恐ろしい病気です。皆さんの身近でもそれまで元気だった方が頭痛を訴えて、突然亡くなった方もいらっしゃると思います。私の祖父の巖も同じ病気で亡くなっています。日本脳神経学会のホームページによれば、クモ膜下出血発症者の半分は死亡するそうです。それ以外の四分の一は生きながらえても社会復帰は不能となります。(左図)私は偶々残り四分の一に入り、後遺症も残さず治癒しました。幸運でした。主治医の皆さんやお見舞いを頂いた方々、診療応援をしてくれた東北大学循環器内科の先生方には深く感謝します。ただ場合によっては滝田医院を閉めなければならぬ危険性もあった重い病気であるということをご皆さんにわかってもらわねばなりません。今後長く地域医療を続け、皆さんのお役に立つためにもあまり無理は出来ないということになります。

6月26日(木)

7月31日(木)

は休診です。

## 今後の診療予定(6月、7月)

朝の来院は午前7時以降  
をお願いします。受付  
の表に名前を書くのは  
予約ではありません。  
あくまで待合室にいる  
患者さん  
の診察順  
番です



お見舞いをいただくのは有難いことですし、「何か月ぶりかで顔を見たい」というご希望もあると思います。ただ上記のような事情ですので当面は週に1~2日の診療にさせて下さい。当面は木曜日だけの診療です。6月20日からは金曜日も診療します。ただし木曜日、金曜日は原則として予約制にします。診察終了後の会計のときに次回の予約を取りますのでご了承下さい。

なお火曜日と水曜日(半日)は7月中旬まで引き続き東北大学の医師が診察します。

7月下旬からは火曜日、水曜日(半日)、木曜日、金曜日の4日間、滝田が診察します。月曜日と土曜日は暫くの間休診のままとします。どうぞご理解下さい。

詳しい日程は待合室に貼り出すカレンダーをご覧ください。

ちなみに6月26日は木曜日ですが休診です。この日は健康保険の集団指導の日で、気仙地方の他の開業医も概ね休診になると思います。ご注意ください。

また7月31日も木曜日ですが休診とします。滝田が広南病院受診のためです。

\*個人的なお見舞いは謹んでご遠慮します。

#朝の来院は7時以降をお願いします。7時前に来院しても施錠してあります。名前を書いていただいても予約ではありません。名前はあくまで待合室にいらっしゃる患者さんの順番です。



## 「医療界の内情」：崩壊寸前だった気仙の医療

昨年、気仙の医療体制は崩壊寸前でした。県立大船渡病院の循環器科が撤退した(常勤医が引上げた)のが全ての発端です。従来撤退した神経内科や呼吸器科とは次元が違います。循環器科は主に心臓を扱い救命救急センターの要です。極端な話をすれば、神経内科や呼吸器科は他の内科医(外科医でも)治療は出来ますが、循環器内科は他科の代替は出来ません。それだけ高度な知識や技量が必要です。大船渡病院循環器科が撤退のあと、気仙地方の「循環器専門医」(日本循環器学会が公認しています。詳細は同学会のHPを参照してください)は当院の滝田のみとなってしまいました。このため外来患者さんは県立からの紹介が増えました。また循環器領域は入院設備を持たない当院のような小さい診療所で全て対応できるもの

ではありません。より専門的な検査や治療には、循環器専門医が常勤する病院が必要なのです。

この辺の事情を承知する院長は4月に東北大学循環器内科を、また9月には岩手医大第二内科を訪ねました。夫々の教授に大船渡病院の循環器科の充実をお願いしてきました。また大船渡市で立ち上げられた「医療体制充実協議会」の幹事に任命されました。救命救急センターの医師の負担緩和のため、市の広報の記事も執筆しました。

結局は大船渡市や気仙医師会の働きかけが奏功し、大船渡病院の循環器科は3名の常勤の先生が揃いました。気仙沼市立病院と同等の先端治療が可能となってくるようです。復職した院長もほっと一息の顛末でした。



## ついに電子カルテ導入す！

院長が倒れる寸前の本年1月4日より、当院では電子カルテを導入しました。気仙では開業と同時に電子カルテを導入する若い先生が多いようです。当院では「こだわり」があり従来敢えて紙カルテを使用してきました。

しかし近い将来、診療報酬のオンライン化やそれに伴う病名や薬品名の共通コード化などIT化の進行が目に見えてきたのと、昨年からは患者数が増えて紙カルテの管理も限界になってきたというのが今回導入に踏み切った理由です。

事務のスタッフはだいぶ慣れたのですが、暫くは院長自身が不慣れたために、却って時

間がかかってしまうかもしれません。ご了承下さい。(大学の先生は従来どおり紙カルテを使用しています。)

当院が導入したのはラボテック社の「スーパークリニック」という電子カルテです。

患者さんにとっての利点は検査結果がインターネット経由で速く届き、結果をお渡しできます。また、時系列表示もすぐ出来ます。検査結果の印刷をご希望の方は院長にご用命下さい。

それから入力作業は最小限で済みますので、患者さんを診ないでパソコンの画面とにらめっこ、という事態は避けられそうです。

## 診察室から

5ヶ月ぶりの診察室。復職出来たことへの喜び、生き永らえたことの有り難さをつくづく感じる。

医者として収穫があったとすれば、患者さんの気持ちがよりよくわかるようになった事かもしれない。大病を一回患ってしまうと自分の体のちょっとした変化でも気になってしまう。

「あの時と同じ？」

ついそのフレーズが頭をかすめる。心配になって

主治医の先生に電話で相談する。

「それじゃあ、外来において」

その言葉が有り難く感じる。診察して貰い

「大丈夫。」

その一言がさらに有り難い。

患者は医者「大丈夫」の一言に救われる。